

第21回 石川県自動車整備技能競技大会

城東支部チームが6度目の優勝



プロの自動車整備士の誇りと石川一の整備士を目指して日頃の腕と技を競う、『第21回石川県自動車整備技能競技大会』（石川県自動車整備振興会主催、石川の技能まつり共催、後援：北陸信越運輸局石川支局、日本自動車整備振興会連合会）が10月16日（日）、金沢市観音堂町の『雇用能力開発機構石川センター（ポリテクセンター石川）』で開催された。

1977年に第1回大会を開催して以来、ほぼ隔年で開催している本大会は、石川県の整備業界における最大のイベントと定着しており、今回は県内13支部から26名の選ばれた整備士により、200人を越える来賓や関係者の見守る中、熱い戦いが繰り広げられた。午前10時より行われた競技は、実車と単体競技を合わせた総合得点で競われ平均点は252.3点（500点満点）であった。



見事優勝を飾ったのは、432点の金沢ブロック城東支部チーム（本屋正輝選手、成出純也選手）で、城東支部としては第8回大会（平成3年）以来、6度目の優勝を果たした。

準優勝は366点の中央ブロック河北支部チーム（白江一成選手、村和哉選手）で優勝との差は66点となった。また、第3位は358点の加南ブロック小松支部チーム（大西洋平選手、坂田裕司選手）で準優勝チームとわずか8点差の接戦の競技となった。



本大会は、自動車整備事業の第一線で活躍している自動車整備士の技能に対して権威のある適切な評価を行い、技能のより一層の向上を促すとともに職責に誇りと励みを与え、かつ、競技大会を通して整備士相互の連帯交流を強める一方、整備事業の公共性と業界の教育訓練・技能錬磨の姿勢を広く社会に示し、業界に対する正しい理解と認識を高め、以て業界の健全な発展と自動車の安全確保及び環境保全に寄与する目的として、昭和52年の第1回全国大会に合わせほぼ隔年で開催し、今年で21回を数えるビッグイベントとなっている。

第10回大会より石川の技能まつりに協賛参画し、県の技能コンクールとしても実施しており、会場には多くの来場者が訪れた。

開会式では、南島大会委員長(南島オート株式会社代表)の開会の辞、来賓を代表して山下石川運輸支局長の祝辞、前回優勝の前中央ブロック河北支部チーム

(二口・城戸選手)による優勝杯の返還に続き、千田競技部会長により競技要領が説明された。

この後、白江一成選手(河北支部チーム)による選手宣誓の後、会場を移動して10時05分よりAグループの7チームの競技がスタートした。



Bグループの6チームの選手は、同時時間帯に石川の技能まつり第1会場開会式(石川県産業展示館3号館)に出席し、石川県知事などから励ましの挨拶を受けた。



競技は二人のチームプレーにより、1年定期点検整備と故障探求が問われた実車競技、競技車輛の部品を使用した単体点検と故障探求が問われた単体競技から構成された問題が出題された。

競技時間は、制限時間内(80分)であれば競技の時間配分は選手が自由に設定して構わないとした。また、配点は実車競技が420点、単体競技が80点の合計500点が総得点となる。

競技は7チーム構成のAグループと6チーム構成のBグループに分かれて行われ、Aグループは10:05~11:25、Bグループは11:50~13:10に競われた。